

カ一八方面軍司令部

年月日	概要
昭八二一	<p>泰国駐屯軍司令部を盤谷に於て編成せらる陸軍中将中村明人初代軍司令官に任ぜらる当時、泰国駐屯軍は作戰軍に非ず隷下部隊なし、印度支那駐屯軍より、派遣せられたる歩兵一大隊を指揮し盤谷を警備す</p> <p>司令部は參謀長以下將校一〇数名の小編成にして、主として泰国との軍事交渉及び通商軍隊の取締に任じあり</p> <p>新たに軍參謀長となりし、前大使館附武館守屋少將は依前盤谷出発</p> <p>東京に歸還す、後任山田国太郎參謀長は着任す</p>
一六	<p>本年夏期カ三一師団（烈）秋期カ一五師団（祭）は泰国を通過し緬甸に至る</p> <p>祭師団の一連隊（柳沢大佐）は</p>
二二	<p>軍指揮下に在りて「チエンマノール」「トントク」道の構築に任ず</p>
三三	<p>独立混成カニカ旅団は盤谷に於て、編成完結し、駐屯軍司令官の隷下に入る、旅団の独立歩兵カ一六二大隊を以て盤谷の警備を印度支那駐屯軍派遣大隊と交代せしめ独立歩兵カ一五九大隊を「チエンマイ」に派遣し「チエンマイ」に</p>

年月日	概 要
昭五 二 末	<p>「トング」道の構築に任じ、独立歩兵少一五八大隊を「カンチャブリ」に派遣し、該方面の警備に任じ、独立歩兵少一六〇少一六一大隊を「ケエンボ」以南、南部「シヤム」に派遣し、該地方の警備に任せしむ。此のニケ大隊は</p> <p>少ニ九軍司令官（石黒中將）の指揮下に入る</p> <p>混成旅団長 田中信男少将は、盤谷に在り警備司令官を兼す</p> <p>南方軍直轄少七野戦補充隊（長湯口俊太郎少将）</p> <p>「ケエンマイ」に到着し緬甸方面軍に対し、人員の補充に任ず</p> <p>独立混成少ニ九旅団長 田中信男少将は</p>
五 末	<p>少三三師団長心得に転じ渡左近少将後任に補せられ着任す</p>
六 末	<p>少七野戦補充隊長 湯口少将は</p> <p>少一四軍に転じ、下永憲治大佐後任に補せられ着任す</p>
七	<p>南「シヤム」警備のニケ大隊復帰、依って独立歩兵少一六〇大隊を盤谷に独立歩兵少一六一大隊を「ランパン」に派遣し、警備を強化す</p> <p>少ニ野戦補充司令官（司令官（小原礼蔵少将））盤谷に於て業務を開始す（南方軍隷下）</p>
二八	<p>の間、少四九師団（狼）「シヤム」を通過し入緬す</p>

((2))

8100

0013

年月日	概要
二一 三三	<p>山田参謀長は師团长に転じ、渡田平少将後任に補せらる（一三月上旬着任）  駐屯軍を野戦軍に改められ、オ三九軍となり、新たに「タボイ」「メルギ」附近南部「テナセリウム」地区防衛を命ぜられ、同時に「タボイ」及び「メルギ」に在りし、独立混成隊二回旅団の一大隊及びオ九四師団の一大隊を軍の指揮下に入らしめらる</p> <p>オ三九軍の任務は南部「テナセリウム」地区の要域を確保すると共に「シヤム」国の防衛に協力して、えを安定確保するに在り</p> <p>軍司令官 中村中将 参謀長 渡田少将</p> <p>依つて在盤谷独立歩兵隊一六〇大隊を「プラチマキリカント」に「チエンマノ」「トントク」道工事中の独立歩兵隊一五九大隊を「バンボン」附近に在り</p> <p>「ランパン」の独立歩兵隊一六一大隊を「テナセリウム」地区に遷派し、警備を強化すると共に、南方軍より命ぜられたる「プラチマキリカント」「テナセリウム」道の構築に任せしむ</p> <p>渡少将は「カンチヤナブリー」に位置す</p> <p>「スマトラ」方面に在りし、オ四師団（長 木村松次郎中将）を指揮下に入らしめられたるも、鉄道破壊せられ、其の主力を「ランパン」附近に集結し得たるは</p>

(三)

0010

0014

年月日	概	要
六 未	にして、之を北泰の防衛に性せしめ其の一部（歩兵ヲ六一連隊及び野砲兵ヲ四連隊主力）を「ナコンナヨーク」に位置し、軍の予備兵力たらしむ	
四 未	以降、緬甸方面軍戦況不利に伴い独立歩兵ヲ一五六大隊を南方軍命令にて緬甸方面軍の指揮下に入らしめヲ四師団の北泰進出に伴いヲ七野戦補充隊を盤谷に招致し、盤谷防衛隊を編成し	
六 未	独立歩兵ヲ一六〇大隊を泰緬線に転進せしむ 泰緬国境の整備を完全ならしむるた	
六 降	逐次印度支那方面よりヲ三七師団（長 佐藤賢了中將）を次で、又 同方面よりヲニニ師団（長 平田正判中將）（歩兵一連隊山砲一大隊基幹を欠く）又 緬甸方面軍よりヲ一五軍司令部（司令官 片村四八中將）及びヲ一五師団（長 渡左近中將）を夫々指揮下に入らしめられたるもヲ一五軍司令部の「ランパン」に到着せしは	
七	初めにしてヲ一五師団及びヲニニ師団主力の「シマム」国内に入りしは、終戦前後なり、ヲ三七師団は、総軍より馬來に前進を命ぜられ前進途中終戦となり既にヲ七方面軍作戦地域に入りたるものを除き再び軍の指揮下に入る	
七 未	ヲ三三師団（長 田中信男中將）は 総軍命令に依り緬甸より仏印に向い転進中 「シマム」国通過向軍の指揮下に入りしものにして一時「ナコンパトム」附近	

年月日

昭三 七 六

概

要

に位置しある間に終戦となる、同兵団の「シマム」国内集結完了は、八月下旬  
なり、

盤谷に於て、ヲ三九軍司令部の人員資材を以て、ヲ一八方面軍司令部を編成す  
其の任務は、ヲ三九軍の時に同じ

方面軍司令官 中村明人中将参謀長 花谷 正 中将 参謀副長 浜田平中将  
なり

同日、ヲ十八方面軍戦才序列を令せられヲ一五軍司令部ヲ四師団、ヲ一五師団  
ヲ二ニ師団、ヲ五六師団及び其の他の後方部隊を方面軍の隷下に入らしめらる  
ヲ五六師団の「シマム」国内に入りしは終戦後なり

泰國駐屯軍編成以未軍の實施せるは、主として、緬甸に対する軍需品の補給運  
送品の中継及び馬來に対する食料補給にして、補給機関たる各補給諸廠は、従  
来ヲ七方面軍のものなりしを

四  
三

に軍の隷下となりたり

緬甸方面の戦況不埒に伴い、軍は急速なる作戦準備の促進と他より転用せられ  
たる部隊の戦力回復編成改正及び患者の処理等に忙殺せられる間、突始終戦と  
なりたり

部隊名

泰國駐屯軍司令部

陸軍中将

中村 明 人

(5)

0016

